

啐 啄 同 時



そ
っ
た
く
ど
う
じ

響きあう心

雛が殻の内から声をあげる「啐（そつ）」と、親鳥が外から殻をつつく「啄（たく）」が、ぴたりと合う時、命は新たな世界へと羽ばたきます。

禅の教えでは、人が「学びたい」「変わりたい」と心を開く時と、それを導く縁や教えが出会う大切さを表す言葉です。

私たちの日々もまた、人との出会い、かけられた一言、支え合う心によって育まれています。互いの声に耳を傾け、思いやりをもって寄り添うことで、新しい一歩が開かれていくのでしょうか。

忙しい毎日の中にも、誰かとの“ちょうどよい出会い”を大切にしたいものです。